

Confidea G3

デジタルワイヤレス会議マイクシステム

取扱説明書



目次

イントロダクション	4
安全にご使用いただくために	5
適合・認証情報	5
安全上の注意事項	5
リチウム電池	7
電源コネクタ	8
Confidea G3 基本構成	9
アクセスポイント (WCAP)	10
LED 表示	11
壁面取り付け・スタンド取り付け	12
設置位置	12
通信可能距離	14
アクセスポイントを起動する	15
ワイヤレスマイクユニット (WDU)	16
マイクステータス LED 表示	17
起動とシャットダウン	18
使用・移動・保管上の注意	18
マイクロフォン (D-MIC)	19
電気・音響特性	19
マイクコネクタ	20
リング LED 表示	20
バッテリーパック (BP)	21
バッテリーの充電と取り扱い上の注意	21
保管時における取り扱い	22
補足：バッテリーパックの寿命 (Cycle Life)	22
セルフチェック機能	23
充電器および充電アダプタについて	23
周波数帯域について	24
2.4GHz ISM	24
RLAN low (5.2GHz 帯)	24
RLAN high (5.6GHz 帯)	25
【混信を回避するには】	25
WCAP の設定画面にアクセスする	26
PC のネットワーク設定	26
WCAP にログインする	27

イニシャライズ手順.....	28
オープンアクセスモード.....	29
マニュアルイニシャライズ	30
ユニットを編集する	31
各種設定・操作画面.....	32
周波数設定.....	34
ディスカッションオプション.....	35
オーディオ設定	38
一般.....	38
AUX 入力	41
AUX 出力	41
オペレーター画面.....	42
リージョン設定	43
ネットワーク設定.....	44
ログイン設定	45
システム情報.....	45
ログ画面	46
暗号化設定.....	47
Confidea G3 をアップデートする.....	48
専用ソフトウェアと連携する	50
Plixus 有線会議・同通システムと連携する	50
WCAP のファクトリーリストア.....	51
カメラコントロールプロトコル.....	52
機器仕様.....	53

イントロダクション

このたびは、televic Confidea G3 デジタルワイヤレス会議マイクシステムをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書を良くお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいた上で、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

お読みになった後は、いつでも閲覧できる場所に保管してください。

ご不明点は、最終ページ記載の連絡先にお問い合わせいただけますようお願い申し上げます。

安全にご使用いただくために

Televic Conference の製品は、世界各国の品質基準を満たすように設計されていますが、以下のような場合、人や物的資産に危険を及ぼす可能性があります。

- > 会議システムを誤って使用した場合
- > 会議システムが安全基準に精通していない人によってセットアップされた場合
- > 会議システムを誤って加工・改造した場合
- > 本書の記載事項を守らずに使用した場合

適合・認証情報

Confidea G3 は、以下の国際規格に準拠しています。

- > EN60065
- > EN55103-1/2
- > IEC60914

Confidea G3 は、日本総務省より以下の指定番号が付与されています。

Ordinance concerning Technical Regulations Conformity Certification etc. of Specified Radio Equipment (特定無線設備の技術基準適合証明等に関する規則)

第二条第一項第十九号の三
承認番号：

- > 202WW10120791/2
- > 202XW10120791/2



本製品を改造した場合、上記の認証は無効になります。

安全上の注意事項

1. **指示書をお読みください** 製品、装置、システムを操作する前に、安全ガイドおよび操作説明書をお読みください。
2. **保管** 安全ガイドおよび操作説明書を、製品またはシステムの近くに保管してください。
3. **警告** 製品および取扱説明書に記載されているすべての警告を厳守してください。
4. **指示** 設置、操作、使用にはすべての指示に従ってください。
5. **クリーニング** 事前に本製品のプラグをコンセントから抜いてください。液体クリーナーやエアゾール式クリーナーは使用しないでください。クリーニングには、固く絞った布のみを使用してください。
6. **換気** 装置のスロットや開口部は換気のためにあります。製品の信頼性の高い動作を確保し、過熱から保護するために設けられています。これらの開口部を塞いだり、覆ったりしないでください。本製品を椅子、テーブル、ラグなどの上に置くことで、開口部を塞いだりしないでください。適切な換気が行われていない、または製造元の指示が守られていない限り、本製品を本棚やラックなどの組み込み型の設備に設置しないでください。
7. **熱源** 本製品は、ラジエーター、ヒートレジスター、ストーブ、その他の熱を発生する製品（アンプを含む）などの熱源から離れた場所に設置してください。標準動作温度を超える環境で使用や操作をしないでください。
8. **改造** 製造元が推奨しない改造、増設などのアタッチメントは、危険を招く恐れがありますので、実施しないでください。
9. **付属品** メーカー指定のアタッチメント/アクセサリのみを使用してください。本製品を不安定なカート、スタンド、三脚、ブラケット、テーブルの上に置かないでください。本製品が落下し、重大な故障や事故の原因になります。本製品は、製造元推奨のカート、スタンド、三脚、ブラケット、テーブル、または製品と一緒に販売されているもののみを使用してください。本製品の取り付けは、メーカーの指示に従い、メーカー推奨の取り付けアクセサリを使用してください。

10. **水気・湿気** 水の近くや湿気が多い場所では使用しないでください。
11. **移動** 台車で製品を移動する際はご注意ください。急停止や過度の力が加わったり、地面に凹凸があったりすると、製品が横転することがあります。
12. **電源** 本製品は、マーキングラベルに表示されている電源の種類でのみ使用してください。室内の電源の種類がわからない場合は、販売店または地域の電力会社にご相談ください。バッテリー電源やその他の電源での使用を目的とした製品については、マニュアルを参照してください。
13. **電力線** 屋外システムは、架空送電線やその他の電灯や電源回路の近くに設置する、あるいはそのような送電線や回路に落下する可能性のある場所には設置しないでください。屋外システムを設置する際には、そのような電力線や回路に触れないように細心の注意を払ってください。米国モデルのみ - CATV システムの設置については、米国電気用品法第 820 条を参照してください。
14. **接地・非接地** 非接地型または接地型プラグの安全目的を損なわないようにしてください。非接地プラグには 2 つのブレードがあり、一方のブレードは他方のブレードよりも幅が広がっています。接地タイプのプラグは、2 つのブレードと GND 極があります。幅広のブレードおよび GND 極は安全のためにあります。付属のプラグがコンセントに入らない場合、電気設備業者に相談しコンセントを交換することを推奨します。
15. **電源コードの保護** 電源コードは、プラグ、電源タップ、および製品から出るコードに特に注意を払い、それらの上に置かれた、または接触しているものに踏まれたり挟まれたりする可能性がないように配線する必要があります。
16. **落雷** 落雷時や、長期間放置して使用しない場合は、本製品を保護するために、壁のコンセントからプラグを抜いてください。これにより、落雷や電力線サージによる本製品の損傷を防ぐことが可能です。(避難装置など特殊な機能を維持する場合は対象外)
17. **過負荷** 火災や感電の危険性があるため、壁のコンセント、延長コード、電源タップに過大な負荷をかけないでください。
18. **物体や液体の侵入** 部品がショートにより火災や感電の原因となるため、電圧源に触れたり、開口部から物を押し込んだりしないでください。また、本製品に液体をこぼさないでください。
19. **引火性・爆発性のある物質** ガスのある場所や、引火性・爆発性物質のある場所での使用は避けてください。
20. **強い衝撃や振動** 本製品を持ち歩く際には、強い衝撃や振動を与えないようにしてください。
21. **整備** カバーを開けたり外したりすると、危険な電圧やその他の危険にさらされる可能性がありますので、ご自身で本製品の修理を行わないでください。すべての整備は、資格のあるサービス担当者に依頼してください。
22. **製品のダメージ** 以下の場合、保守を受ける必要があります。資格のある保守担当者に依頼してください。
 - a. 電源コードやプラグが破損している場合
 - b. 製品内部に液体・固体の異物が浸入してしまった場合
 - c. 雨や水にさらされた場合
 - d. 取扱説明書に従って操作しても正常に動作しない場合。取扱説明書に記載されている操作のみ行ってください。不適切な操作は損傷の原因となり、製品を正常な動作に戻すためには、資格を持った技術者による大掛かりな作業が必要となることがあります。
 - e. 落下や破損があった場合
 - f. 製品がパフォーマンスに明確な変化を示す場合
23. **パーツの交換** 交換パーツが必要な場合は、サービス技術者がメーカー指定の交換部品を使用しているか、元の部品と同じ特性を持っていることを確認してください。無断で交換すると、火災、感電、等の危険性があります。
24. **安全確認** 本製品のサービスや修理を完了する際は、技術者に安全点検を依頼し、適切な動作状態にあるかどうかを確認してください。
25. **同軸ケーブルの接地** 本機に外部ケーブルシステムが接続されている場合は、ケーブルシステムが接地されていることを確認してください。(U.S.A. モデルのみ。ANSI/NFPA No.70-1981 のセクション 810 では、設置と支持構造の適切な接地、放電装置への同軸の接地、接地導体のサイズ、放電装置の位置、接地電極への接続、および接地電極の要件に関する情報を提供しています。)
26. **目の露出** 赤外線放射による永久的な眼の損傷に注意してください。恒久的な暴露は、50 cm の距離で許可されています (IEC62471 2006-2007 初版に準拠した $E=100 \text{ W/m}^2$ の制限値)。10cm 以下の距離では (= サービス、設置テストのため)、20~30 秒後に制限値に達します。注意事項：サービス/テスト中は LED を覆い、露出時間を制限してください。LED を直視しないようにし、露光時間を制限してください。10~50cm の距離では、LED を直視しないようにし、露光時間を制限してください。

リチウム電池

- ＞ 充電は専用の充電器でのみ行ってください。
- ＞ 直接コンセントやシガーライターの充電器で充電しないでください。
- ＞ 極性反転して充電しないでください。

使用環境

- ＞ 電池を火気や加熱された場所に近づけないでください。
- ＞ 電池を火の中に投げ込まないでください。
- ＞ 内部の温度が 60° C 以上になるような環境下において、製品を放置したり、充電したり、使用しないでください。
- ＞ バッテリーを水に浸したり、投げたり、沈めたりしないでください。

その他

- ＞ ポーチやポリマーなどのラミネートフィルムで覆われた電池を折り曲げないでください。
- ＞ 電池をポケットやバッグに入れて、鍵、ネックレス、ヘアピン、コイン、ネジなどの金属製のものと一緒に保管しないでください。
- ＞ (+)端子、(-)端子を故意に金属物でショートさせないでください。
- ＞ 針やドライバーなどの鋭利なもので電池を突き刺さないでください。
- ＞ はんだごてなどの熱したもので電池の部品を加熱しないでください。
- ＞ ハンマーなどの重いものでバッテリーを叩かないでください。
- ＞ 機械的な衝撃を避けるため、バッテリーを踏んだり、硬い床に投げたり落としたりしないでください。
- ＞ 電池の分解や電気回路を含む電池設計の変更はしないでください。
- ＞ 電池に直接ハンダ付けしないでください。
- ＞ 重度の破損や変形したバッテリーは使用しないでください。
- ＞ 電子レンジ、乾燥機、高圧容器に電池を入れないでください。
- ＞ 他の製造業者の電池、乾電池、ニッケル水素電池、ニカド電池などの異なる種類やモデルの電池と一緒に使用したり、組み立てたりしないでください。
- ＞ 新しい電池と古い電池を一緒に使用したり、組み立てたりしないでください。
- ＞ 指定された時間内に充電が完了しない場合は、充電を中止してください。
- ＞ 使用中、充電中、保管中に電池が異常に高温になったり、順番が変わったり、変色や変形、異常な状態になった場合は、使用を中止してください。
- ＞ 液漏れや悪臭を感じたら、すぐに火気から遠ざけてください。液が皮膚や衣服についた場合は、すぐに真水でよく洗ってください。
- ＞ 電池から漏れた液体が目に入った場合は、目をこすらずにきれいな水で洗って、すぐに医師の診察を受けましょう。
- ＞ バッテリーの端子が汚れた場合は、乾いた布で拭いてから使用してください。
- ＞ 電池は以下の温度範囲内で使用可能です。これらの範囲を超えないようにしてください。
- ＞ 充電中： 0～45 °C
- ＞ 放電中： -20～60 °C.
- ＞ 保管の際は 60°C以下の温度で保管してください。
- ＞ 廃棄する際は適切な絶縁テープで端子を覆ってください。

電氣的仕様

- ＞ バッテリーは定電流定電圧（CC/CV）で充電する必要があります。
- ＞ 充電電流はセルの仕様で指定された値で制御する必要があります。
- ＞ カットオフ電圧は 4.2V でなければなりません。
- ＞ 充電器は、セルの仕様で指定された充電時間または電流を検出して充電を停止する必要があります。
- ＞ 放電電流は、セルの仕様で指定された値で制御する必要があります。
- ＞ 放電のカットオフ電圧は 2.5V 以上でなければなりません。

その他

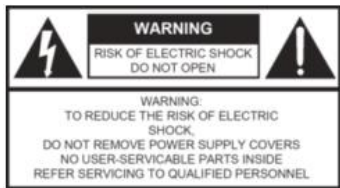
- ＞ バッテリーや充電ケースを使用する前に、マニュアルを読み、取り扱い上の注意事項を確認してください。バッテリーの使用時間が通常よりも短くなった場合は、バッテリーを交換してください。
- ＞ 破棄の際は接点部を絶縁テープで覆ってください。

- ＞ 電池を長期間保管する必要がある場合は、本体から電池を取り外し、湿度や温度が低い場所に保管してください。
- ＞ 充電して使用して保管している間は、静電充電器で物体の材料から遠ざけてください。

電源コネクタ

常時電源に製品を接続する場合は、電源切断のできる装置を固定配線に組み込み、容易にアクセス可能でなければなりません。

プラグ可能な機器の場合は、ソケットアウトレットを機器の近くに設置し、容易にアクセス可能でなければなりません。



このラベルはスペースの都合上、装置の底面に表示される場合があります。



このマークは、製品の筐体内に人が感電する危険性を構成するのに十分な大きさの、絶縁されていない「危険な電圧」が存在することをユーザーに警告しています。



このマークは、本機に付属する文献の中に重要な操作およびサービス上の指示があることをユーザーに知らせるものです。



火災や感電の危険性を減らすために、この機器を雨や湿気にさらさないでください。また、筐体を開けないでください。

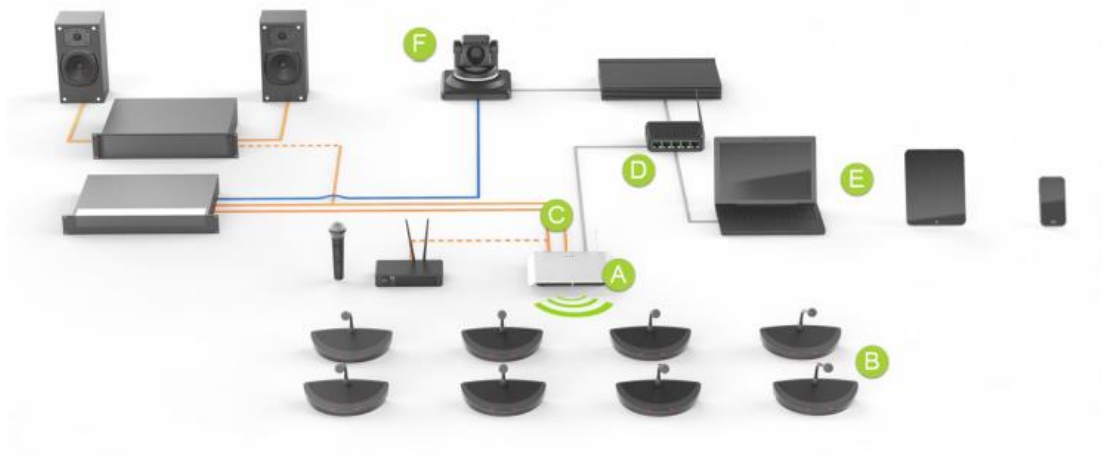


感電防止のため、刃が露出しないように刃を十分に差し込める場合を除き、この（分極）プラグを延長コードレセプタクルなどのコンセントに接続して使用しないでください。



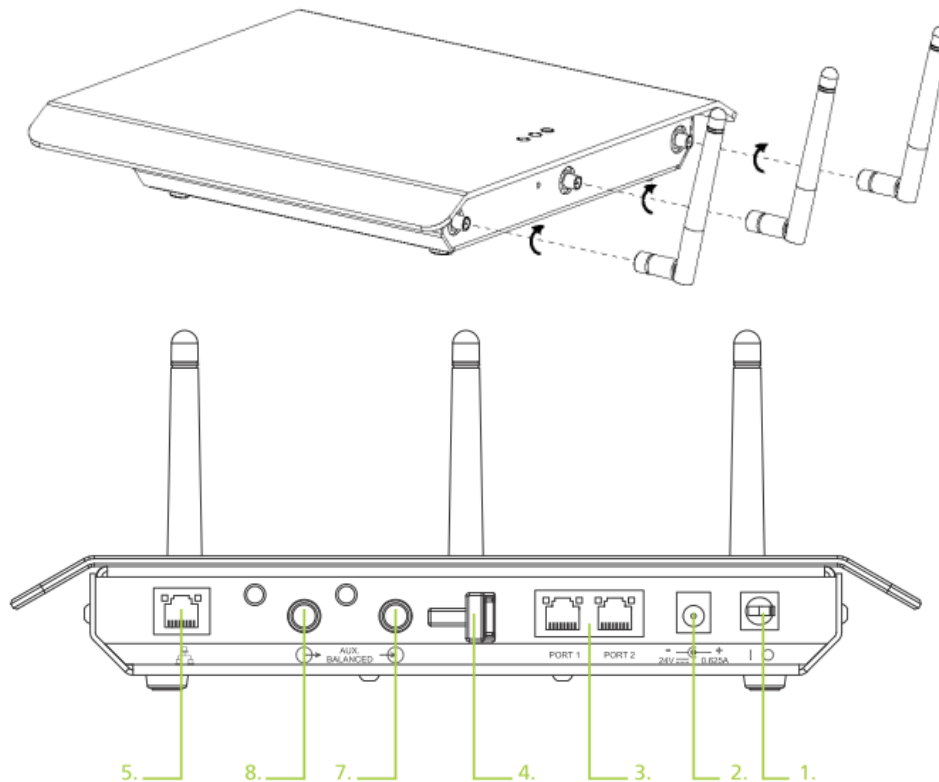
機器の設置は、国家電気標準規格または適用される地域の法令に従い、資格のある担当者のみが実施してください。

Confidea G3 基本構成



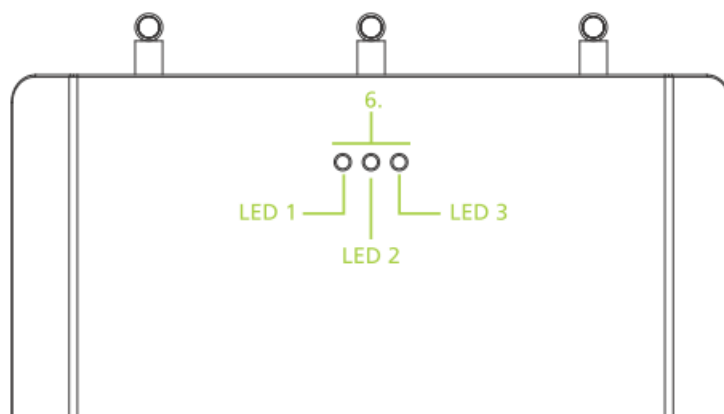
- > A: WCAP (ワイヤレスアクセスポイント)
スタンドアローン構成 (Plixus ワイヤードシステムと連携しない構成) においては、WCAP はシステムのセントラルユニットとしても動作します
- > B: WDU (無線マイクユニット) 参加者用/議長用
- > C: AUX アナログ入出力により、外部オーディオシステムに接続が可能です。
- > E: WCAP には Web サーバーが内蔵されており、Web ブラウザで設定が可能です。デスクトップコンピュータ、ノート PC、タブレット、あるいはスマートフォンでアクセス可能です。また、専用ソフトウェア CoCon を使用することで、投票・スピーチタイマー等のより高度な会議運用を行うことが可能です
- > D: ネットワーク経由で、カメラ (F) 制御用のカメラコントロールプロトコルを実装しています。詳細についてはカメラコントロールの章で説明します。

アクセスポイント (WCAP)



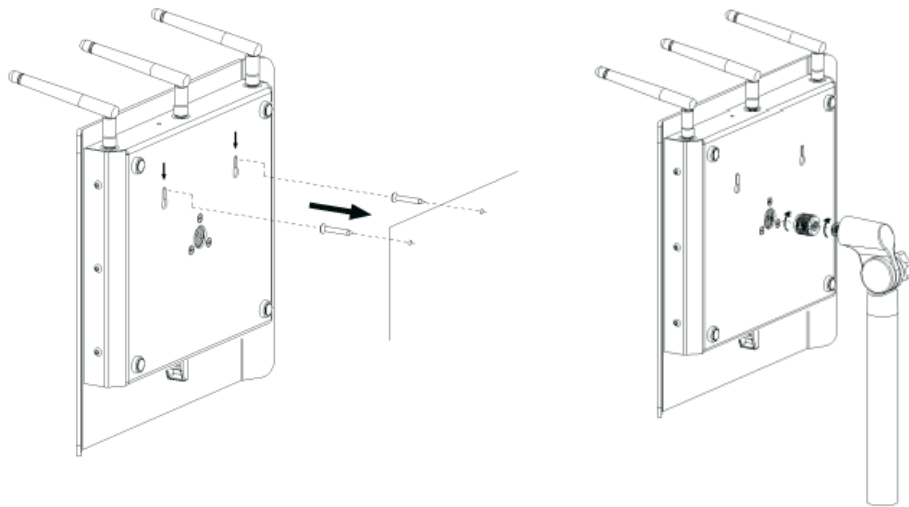
1. 電源スイッチ | 側オン、○側オフ
2. 電源コネクタ 24VDC の専用電源アダプタ (Confidea APPS) を接続します
AC アダプタ (Confidea APPS) 仕様: 24V / 0.625A
DC 電源プラグ: 外形 5.5mm / 内径 2.1mm / センタープラス
3. デジタルバス接続 Plixus システムとの接続に使用します。
このポートを使用する場合、主装置から給電を行うため AC アダプタは不要です。
4. ケーブル保持クリップ
5. LAN ポート
6. ステータス LED ステータス表示の詳細については後述を参照してください。
7. Aux 入力端子 TRS6.3mm コネクタ バランス入力
8. Aux 出力端子 TRS 6.3mm コネクタ バランス入力

LED 表示



LED 1	LED 2	LED 3	説明
白			ブートシーケンス（起動中）
緑（点滅）			イニシャライズされたユニットなし
緑			イニシャライズされたユニットあり
緑		青	Plixus システムカップリング動作中
緑		青（点滅）	Plixus システムカップリング動作中： イニシャライズオープン
緑	ピンク	青	Plixus システムカップリング動作中： WCAP にリンクした Confidea G3 ユニ ットが 0 台
赤（点滅）			フォールバックモード、イニシャライ ズされたユニットなし
赤			フォールバックモード、イニシャライ ズされたユニットあり
	白（点滅）		アップデート中
赤/緑/青の 点滅	赤/緑/青の 点滅	赤/緑/青の 点滅	テストモード中

壁面取り付け・スタンド取り付け



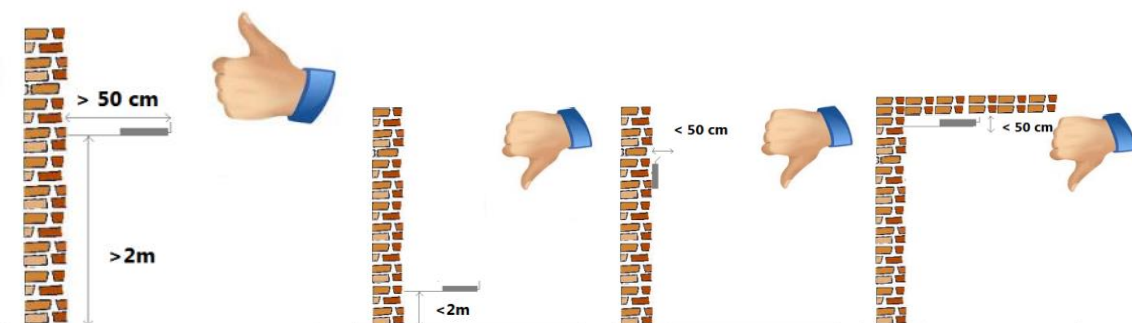
- ＞ 左図： 底部にある2つの固定穴を利用して壁掛けによる取り付けが可能です。
- ＞ 右図： 中心部のスクリューを使用してスタンドに取り付けることも可能です。

取り付けの際は事故を防ぐため、安全上の注意に従って壁に取り付けてください。

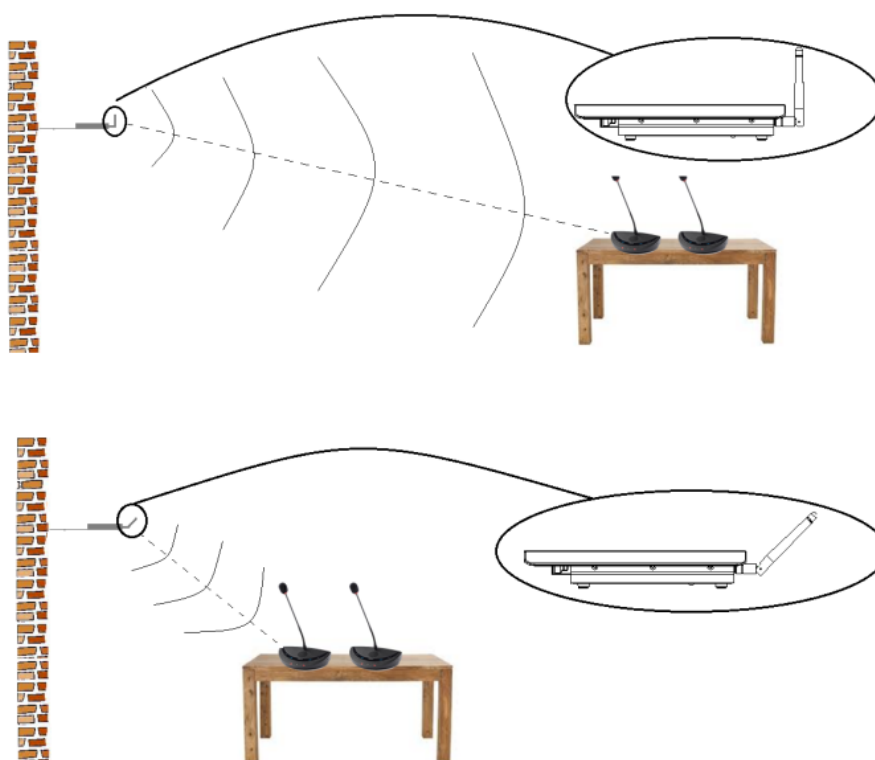
設置位置

- ＞ 壁、キャビネット、パネル、プロジェクションスクリーン、ガラススクリーンなどの障害物の後ろに設置しないでください。無線通信の強度と品質を著しく低下させる可能性があります。
- ＞ 吊り天井の上には設置しないでください。反射等による信号減衰の原因になります。
- ＞ 電力ケーブル、ケーブルトレイ、電気機器等はアンテナの信号に影響を与える可能性があります。
- ＞ 金属製のケーブルトレイや金属製の棚に置かないでください。
- ＞ WCAP を柱に取り付けるのは避けてください。柱自体が無線通信を遮断する「影」になり、通信不良を発生する範囲ができることがあります。

- ＞ 壁・天井・床に非常に近接するような設置は避けてください。RF 信号が吸収され、通信の品質が低下するおそれがあります。



- ＞ 三本のアンテナは、ユニットに直接向けるのではなく、ユニットの方向に対してなるべく垂直に向けてください。マイクユニットの設置位置に対応してアンテナの角度を調整することで、WCAP の位置による影響を抑え、無線通信を最適な状態に調節することができます。



通信可能距離

1 台の WCAP は、理想的な環境下（オープンフィールド）においては半径 30m の範囲内に
あるマイクユニットと通信が可能です。

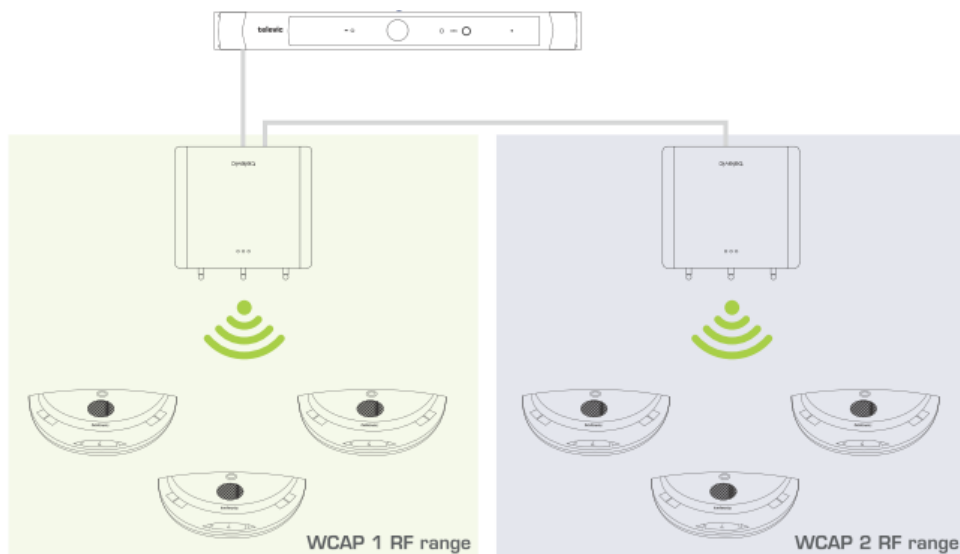


コンクリートや金属など特定の建築材料は、RF 信号の放射を一部吸収する可能性
があり、その結果アクセスポイントとユニット間の通信可能な距離が短くなるこ
とがあります。

WCAP の範囲の拡張は、Plixus シリーズの主装置に複数の WCAP を接続することによって実
現が可能です。複数の WCAP を使用することで、会議室全体に広がるより多くのユニットに接
続することが可能です。Plixus の詳細、および両システムの接続方法については、Plixus シリ
ーズの資料を参照してください。



WDU の通信先となる WCAP は設定によって固定されます。下図の WCAP 1 RF
range エリアにある WDU は左の WCAP のみと通信し、右の WCAP とは通信し
ません。



アクセスポイントを起動する

1. 24V AC アダプター（Confidea APPS）を WCAP と電源ソケットに接続します。
2. Confidea G3 の電源スイッチを | 側に倒します。
3. 左側の LED ライトが白く点滅し始め、システムの起動中を表示します。
4. LED ライトが緑色に点灯し、アクセスポイントの起動が完了したことを表示します。



LED が緑にならない、または赤になった場合は、設備の保守担当者へご連絡ください。

ワイヤレスマイクユニット (WDU)

(フロント部)



全ユニット共通機能：

1. マイクコネクタ
2. 発言ボタン マイクのオンオフを切り替えます。
3. スピーカー フロアチャンネル（会場音声）を拡声します。マイクをオンにしている間はミュートします。
4. ヘッドホンジャック（3.5mm TRS） モノラル/ステレオのヘッドホン・イヤホンを接続します。
5. ヘッドホンボリュームボタン ヘッドホンの音量レベルを調節します。
6. マイクステータス LED マイクの状態をステータス表示します。（詳細後述）

以下、機能付きモデルのみ：

7. PRIOR ボタン（議長モデル） 発言中のマイクをすべてオフにします。長押しすると、押している間だけマイク音声をミュートします。
8. NEXT ボタン（議長モデル） リクエストモードにおいて、リクエスト中のマイク順にオンします。
9. システム音量調整（T-CIV） このボタンを押したまま音量ボタンを押すことで、内蔵スピーカーの音量を調整します。
10. 投票ボタン（投票機能付きモデル） 各投票ボタンに青色の LED インジケーターがあります
11. 言語選択ボタン（言語選択機能付きモデル） 通訳言語の選択に使用します
12. インフォメーションディスプレイ（機能付きモデル） 投票・音量・言語チャンネルの情報を表示します

(リア部)



13. RFID カードリーダー（機能付きモデルのみ）

14. RF ステータス LED 無線通信の状態を青色 LED で表示します。

消灯： 接続完了
点滅： 接続のサーチ中
点灯： 圏外



青色 LED 表示している状態のまま 2 分経過すると、ユニットは自動的に電源オフになります。

15. バッテリーステータス LED バッテリー残量が少ないとき、残り動作時間を赤色 LED で表示します。

1 秒に 1 回点滅： 残り 4 時間
1 秒に 2 回点滅： 残り 2 時間
1 秒に 4 回点滅： 残り 1 時間

マイクステータス LED 表示

LED 表示	状態
両側 LED が赤点滅	起動時、WCAP との接続をサーチ中
両側 LED が緑点滅	WCAP との接続が失われました
両側 LED が数秒間赤点滅したのち、 左 LED が点灯、右 LED が数秒間点滅	WCAP 接続の試行中

起動とシャットダウン

発言ボタンを押すと LED が点滅し、ユニットの起動を開始します。リンクした WCAP の電源がオフになっており、WCAP との接続が確立できなかった場合は、約 2 分後に電源が自動でオフになります。



マイクをオンしている状態において WCAP との接続が確立できなかった場合は、無線ユニットは WCAP との接続をサーチし続けるため、電源はオンのままになります。ユニットのバッテリーを取り外すとマイクユニットは強制終了します。

使用・移動・保管上の注意

- ＞ WCAP が起動している限り、マイクユニットは無線通信を保持するため起動し続けます。 unnecessary バッテリーの消費を抑えるにはバッテリーを本体から取り外します。
- ＞ マイクユニットの移動は必ず本体をもって行ってください。グースネックマイクを持って移動を行うと、マイクコネクタ部の破損の恐れがあります。
- ＞ 機器の保管は清潔で乾燥した場所にて行ってください。

マイクロフォン（D-MIC）

（D-MIC40SL： 40cm モデル本体）



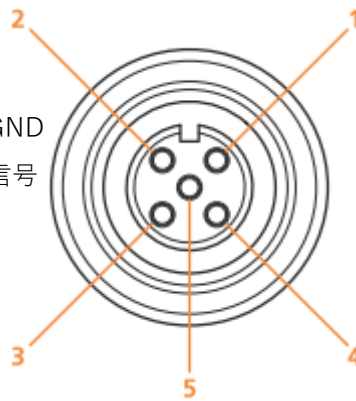
1. リング LED マイクの状態を表示します（後述）
2. ユニオンナット（スクリューロック） マイク取り付けの際はスクリューで固定します。
3. マイク端子

電気・音響特性

トランスデューサー	バックエレクトレット（コンデンサー）
動作原理	圧力勾配
指向性	単一指向性、カーディオイド
ノミナルインピーダンス	Bias resistor = 1k2 Vdd = 3.3 V DC SPL = 1Pa
最大 SPL @ 1 kHz	110 dB SPL (1% THD+N)
S/N 比	>67 dB(A)
感度	9.4 mV/Pa, ± 3 dB @ 1 kHz or (-40.5 dB, 0 dB = 1 V/Pa @ 1 kHz)
電力供給	3.3 V DC, 0.5 mA
消費電流	0.5 mA (LED リング消灯時) max. 25 mA (LED リング点灯時)

マイクコネクタ

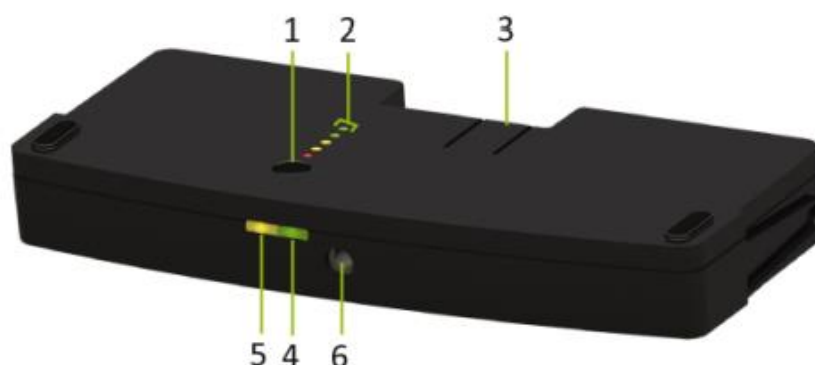
- 1 番ピン： マイクロフォン GND
2 番ピン： マイクロフォン 信号
3 番ピン： (未使用)
4 番ピン： LED プラス
5 番ピン： LED マイナス



リング LED 表示

LED	状態
赤点灯	マイクオン、発話中
赤点滅	スピーチタイマー終了 1 分前 (CoCon による設定時) または発言リクエスト中
緑点灯	リクエスト中 (2 番目以降の発話者) またはイニシャライズ中
緑点滅	リクエスト中 (次の発話者)

バッテリーパック（BP）



1. テストボタン ボタンを押して、バッテリーパックの容量と状態を確認します。
2. 残量・ステータスインジケーター 電池の残量を表示します
3. クリップ 無線ユニット本体との接続をロック/ロック解除します。
4. 電源 LED 充電器接続時、充電器の電源が入っていることを示します。
5. 充電 LED 充電器接続時、充電状態（進行中/完了）を表示します。
6. DC ソケット 充電アダプタ（Confidea BPC）充電時、ここにプラグを接続します。

仕様

出力電圧	7.2V
容量	6600mAh
充電時間	4 時間
最大充電電圧	15V
充電電流	2A
持続時間	28 時間（TYP 値）

充電アダプタ（Confidea BPC）仕様

- > 15V / 2A
- > DC 電源プラグ： 外径 5.5 mm、内径 2.1 mm、センタープラス

バッテリーの充電と取り扱い上の注意



リチウム電池の使用前に、安全上の注意をお読みください。

- > 初回充電は受け取り次第すみやかに行ってください。
- > バッテリーパックの残量が 20%以下になると、バッテリーLED は赤 LED で表示します。
この場合、直ちにバッテリーパックを再充電してください。

- ＞ 充電残量がなくなった電池は 30 日以内に充電してください。
- ＞ 充電残量がなくなった電池を無線ユニットにつないだまま放置しないでください。
- ＞ リチウムイオン電池を最大限に長く使用するには、適切な換気が行われた状態で充電器にて充電を行ってください。キャリングケース（Confidea CHC）に充電器を組み込んでいる場合、ケースのふたは開けた状態にて充電を行ってください。



電池を完全に消耗させると、その寿命を大きく低下させる可能性があります。無線ユニットをしばらくの期間使用しない場合はバッテリーを本体から取り外し、必要に応じて充電を行ってください。

保管時における取り扱い

- ＞ バッテリーは、適度に涼しく（温度 0℃～35℃）、湿度も適切な（相対湿度 5%～75%）環境下で保管してください。
- ＞ 自然放電を避けるために、数ヶ月もしくはそれ以上の期間使用しない場合はユニットからバッテリーを抜いた状態で保管しておくことを推奨致します。

補足：バッテリーパックの寿命（Cycle Life）

バッテリーパックの寿命は、使用時・充電時・保管時の環境によって大きく開きがあります。永く使用するためにも、前述の取り扱い方法をできる限り守った状態で使用・充電・保管してください。

Televic は Confidea BP の寿命として「300-500 回の充放電」を目安としております。この回数（Cycle Life）は、「バッテリーが元の容量の 80% 以下になるまで充放電できる回数」として定義されており、500 回以上充放電した以降も（会議に支障をきたさない限りは）継続して使用することも可能です。

バッテリー容量が会議に支障しうほど低下した場合、もしくは後述の「セルフチェック機能」にて正常表示以外の表示をした場合は、バッテリーを新品に交換してください。

セルフチェック機能

バッテリーのテストボタンを押すと、5 セグメントの LED で残量を表示します。テストボタンに一番近い LED は赤色で、バッテリーの容量が少ないことを示します。充電量が多いほど、点灯する LED の数が多くなります。

LED	バッテリー残量
LED 1 (赤色)	0-20%
LED 2 (橙色)	20-40%
LED 3 (橙色)	40-60%
LED 4 (緑色)	60-80%
LED 5 (緑色)	80-100%

電池残量を 4～5 秒間表示したのち、3 つの LED (LED1～LED3) で充電回路の状態を表示します。

LED	説明
LED 3 点滅	充電回路に問題はありません

充電器および充電アダプタについて

Confidea CHT は、Confidea BP 専用の充電器（チャージングトレイ）です。

Confidea BPC は、Confidea BP 専用の充電用 AC アダプタです。

充電器による充電

1. 充電器に AC 電源を接続します。
2. バッテリーパックを無線ユニット本体から取り外し、6 つある充電スロットに差し込んでください。
3. 充電中はバッテリー側部の LED が黄色と緑に点灯します。
4. バッテリーが満充電になると、バッテリー側部の LED は緑のみの点灯表示になります。

AC アダプタによる充電

バッテリー側部の DC ソケットに AC アダプタを接続します。バッテリーをマイクユニットから取り外した状態でも、取り付けたままでも充電することが可能です。

周波数帯域について

Confidea G3 システムは、一般的な無線 LAN デバイスと同様、IEEE 802.11 a/g 規格に基づいた伝送方式ですが、混信に対しより高い堅牢性を持たせるため、伝送プロトコルに独自開発のプロトコルを追加しております。

日本国内では、2.4GHz 帯および 5.2GHz 帯（W52・W56）、5.6GHz 帯（W56）の周波数を選択することができます。



2.4GHz 帯、5GHz 帯は世界的にライセンスフリーな帯域ですが、各国の制限に注意する必要があります。

2.4GHz ISM

Confidea G3 は、利用する周波数を次の 13 チャンネルから任意に選択することが可能です。

チャンネル番号と中心周波数[MHz]

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
2412	2417	1422	1427	2432	2437	2442	2447	2452	2457	2462	2467	2472



この帯域は 22MHz と広いバンド幅を使用する特性をもっており、近接するチャンネル同士はオーバーラップしてしまうため同時に使用することができません。複数のチャンネル混信しないようにするには、間に 4Ch 以上の空きを設ける必要があります。したがって、同一空間では最大でも 3 チャンネル（例：1-6-11）までしか同時に使用することができません。

RLAN low（5.2GHz 帯）

Confidea G3 は、利用する周波数を次の 8 チャンネルから任意に選択することが可能です。隣接するチャンネルはオーバーラップしないので、同時使用することが可能です。

チャンネル番号と中心周波数[MHz]

36	40	44	48	52	56	60	64
5180	5200	5240	5240	5260	5280	5300	5320



36-48Ch は屋内での使用に限定されます。

RLAN high (5.6GHz 帯)

Confidea G3 は、利用する周波数を次の 11 チャンネルから任意に選択することが可能です。
隣接するチャンネルはオーバーラップしないので、同時使用することが可能です。

チャンネル番号と中心周波数[MHz]

100	104	108	112	116	120	124	128	132	136	140
5500	5520	5540	5560	5580	5600	5620	5640	5660	5680	5700

【混信を回避するには】

複数の無線装置が同じ周波数帯域を使用することは物理的に不可能です。混信を避けるには、Confidea G3 システム / Wi-fi 設備 / Wi-fi に接続する PC やモバイル機器 / その他機器が、同じ周波数帯域を重複して使用しないよう管理する必要があります。

周波数を厳格に管理することが、混信のリスクをもっとも低める運用につながります。

周波数の割り当ての計画を事前に行い、それに基づいた設定を実施してください。施設内に無線 LAN やその帯域を使用する機器がある場合は、既存設備が占有する周波数を事前に調査する必要があります。

- ＞ Confidea G3 は、混信回避の為に空きのチャンネルに自動でシフトする機能を備えていますが、可能な限り周波数の割り当てを計画的に実施し、割り当てられた周波数のみ使用するようセットアップすることを強く推奨します。
- ＞ 電子レンジや Bluetooth デバイスは 2.4GHz 帯域の断続的な干渉の原因になります。そのため、5GHz 帯の使用を推奨します。
- ＞ 5GHz 帯を使用する場合はサイドバンドによる影響を避けるため、隣接するチャンネルは避けて 1 チャンネル以上の「空き」を設けるとより理想的です。
- ＞ スマートフォンやタブレットなどの Wi-Fi デバイスは、Wi-Fi 接続を探すため定期的なプロービング信号を送信する機能があります。この信号は接続が確立されるまで Wi-Fi 帯域全体にわたって継続的に送信されます。室内に多数の Wi-Fi 機器がある場合、このプロービング信号が Confidea G3 システムの通信環境が不安定になるおそれがあります。
また、Wi-Fi アクセスポイント十分な容量を確保していなかった場合、これと接続をする Wi-fi 機器が Confidea G3 システムの通信を妨害することがあります。

WCAP の設定画面にアクセスする

Confidea WCAP G3 は設定用の Web サーバーを内蔵しており、基本的に Web ブラウザで設定・操作を行います。

ウェブサーバーは、モバイルタイプ、デスクトップタイプ両方のデバイスに対応しています。



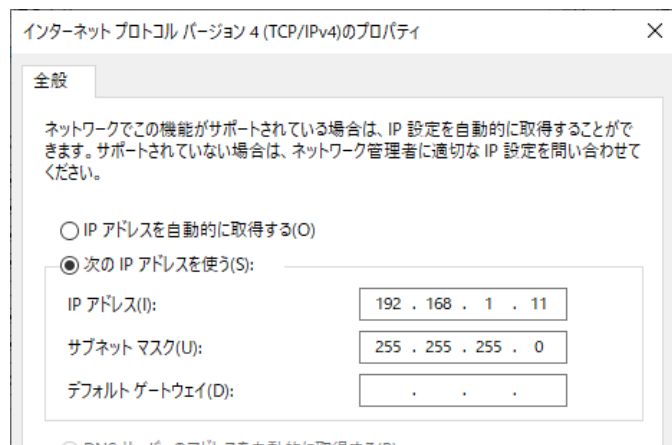
お使いのコンピュータにインストールされているセキュリティソフトによって、ウェブサーバーの機能がブロックされる場合があります。

PC のネットワーク設定

WCAP G3 の LAN ポートは、デフォルトで以下のように設定されています：

- > IP アドレス 192.168.1.110
- > サブネットマスク 255.255.255.0

Confidea G3 の Web サーバーにアクセスするには、まず WCAP と接続するコンピュータのネットワーク設定を、WCAP と同一セグメント内に設定してください。（例 IP アドレス：192.168.1.11 サブネットマスク：255.255.255.0）



（ネットワーク設定一例：

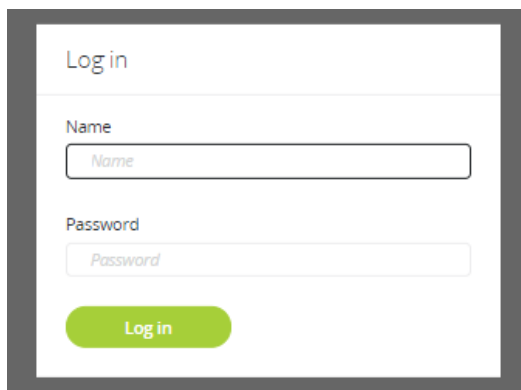
Windows10）

WCAP にログインする

1. Web ブラウザを開き、アドレスバーに WCAP G3 の IP アドレスを入力し Enter を押します。
2. 以下のログイン画面が現れた場合は、ユーザー名とパスワードを入力します（初期化時設定で無効にした場合、この画面は現れません）

ユーザー名 admin

パスワード admin



Log in

Name

Password

Log in

3. ログインが成功すると以下のホーム画面が現れます。



televic Confidea G3

メニュー ホーム

会議の情報		ネットワーク情報	
使用中の周波数	5.700 GHz	IPアドレス	192.168.1.110
選択された周波数	5.700 GHz	MACアドレス	04:79:B7:19:3C:60
スピーカ音量	18		
発言モード	リクエスト		
イニシャライズされた台数	2 ユニット		
発言中の台数	0 ユニット		

イニシャライズ手順

マイクユニットを WCAP にリンクさせ、会議に参加できるようにする操作をイニシャライズと呼びます。

1. メニューより「イニシャライズ」をクリックすると以下の画面が現れます。



WCAP G3 は 2 種類のイニシャライズモードがあり、いずれかの方法を選択します。

オープンアクセス WCAP が検出したユニットはすべて自動で WCAP にリンクします。

マニュアルイニシャライズ 後述の操作手順によりリンク操作を行ったユニットのみ WCAP とリンクさせます。リンクさせていないユニットは WCAP と通信しません。



近接する室内に、複数の独立した Confidea G3 システムを設置する場合は、マニュアルイニシャライズを選択する必要があります。



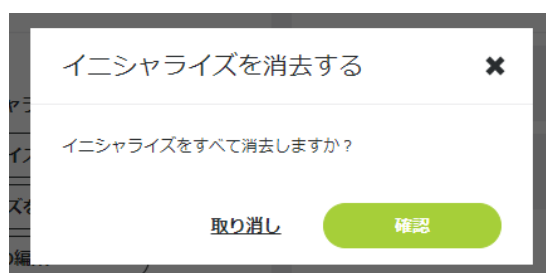
カメラトラッキングやオンオフ制御などの制御連携を行う場合は、マニュアルイニシャライズを選択する必要があります。

オープンアクセスモード

1. イニシャライズ画面にて「オープンアクセス」を選択します。
2. ユニットの電源をオンにすると、起動後 画面左側の「イニシャライズリスト」に自動でユニットが追加され、ユニットがWCAP とリンクします。リンクが完了すると、赤点減していた発言ボタンの LED が消灯します。



3. 名前の編集やグループを作成したい場合は、この状態で「マニュアルイニシャライズ」に切り替える必要があります。詳細は後述の「ユニットを編集する」を参照してください。
4. WCAP にリンクしたユニットを全消去します。「イニシャライズを消去する」をクリックします。確認ダイアログが現れるので「確認」をクリックして承諾します。



マニュアルイニシャライズ

1. イニシャライズ画面にて「マニュアルイニシャライズ」を選択します。
2. 既存のリンク設定を消去したい場合、「イニシャライズを消去する」をクリックすると確認ダイアログが現れるので、「確認」をクリックします。
3. 「イニシャライズを開始」をクリックすると、WCAP はイニシャライズの待機状態になります。
4. リンクしたいユニットを起動します。ユニットの発言ボタンを一度押すと、起動を開始します（発言 LED は赤く点滅します）。
ユニットが WCAP を検出するまで、ユニット背面の RF LED が青く点滅します。検出が完了すると消灯します。
5. ステップ 4 の状態で赤点滅している発言ボタンを一度押すと、発言ボタン LED が緑点灯に切り替わります。同時に、画面右側「イニシャライズリスト」にユニットが追加されます。
6. ステップ 5 の操作を繰り返し、WCAP にリンクしたいすべてのユニットを緑点灯にします。
7. 「イニシャライズを終了」をクリックすると、リンクの終了および保存が行われます。この時点で、WCAP にリンクさせたユニットのみ会議に参加できるようになります。リンクの情報は WCAP に保存され、電源を切っても保持されます。
8. 「イニシャライズリスト」には、ユニットごとに以下の情報が表示されます。

パラメーター	説明
ユニット名	ユニット名が編集可能です
議長アイコン	議長権限が付与されているユニットには★マークが表示されます
シリアルナンバー	ユニットのシリアルナンバー
電池残量	起動できる残り時間
パケットロス	無線通信におけるデータロスが検出された場合、そのロス量を%表示します。パケットロスは音質に影響し、値が大きいほど音質が悪くなります。

イニシャライズリスト

Delegate 1 ★

15142CC5  28 h

Delegate 2

1514301A  29 h

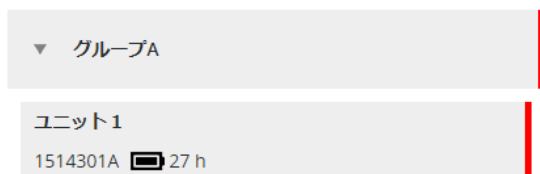
ユニットを編集する

「イニシャライズリスト」に追加されたユニットは、名前を変更したり、グループを作成してユニットをグループに追加したりする編集が可能です。また、ユニットのリンクを解除することも可能です。

1. イニシャライズ画面より「設定の編集」をクリックすると編集モードになります。



2. 「新規グループを追加」をクリックするとグループを作成します。色を選択し、名前を入力して Enter キーを押すと確定します。
3. リスト表示されているユニットの編集アイコン（ペンのマーク）をクリックするとユニット名を編集できます。ユニット名は Enter キーで確定します。
ユニットを作成したグループに追加するには、右側のプルダウンリストからグループを選択します。グループに追加したユニットの右側にはグループの色が表示されます。



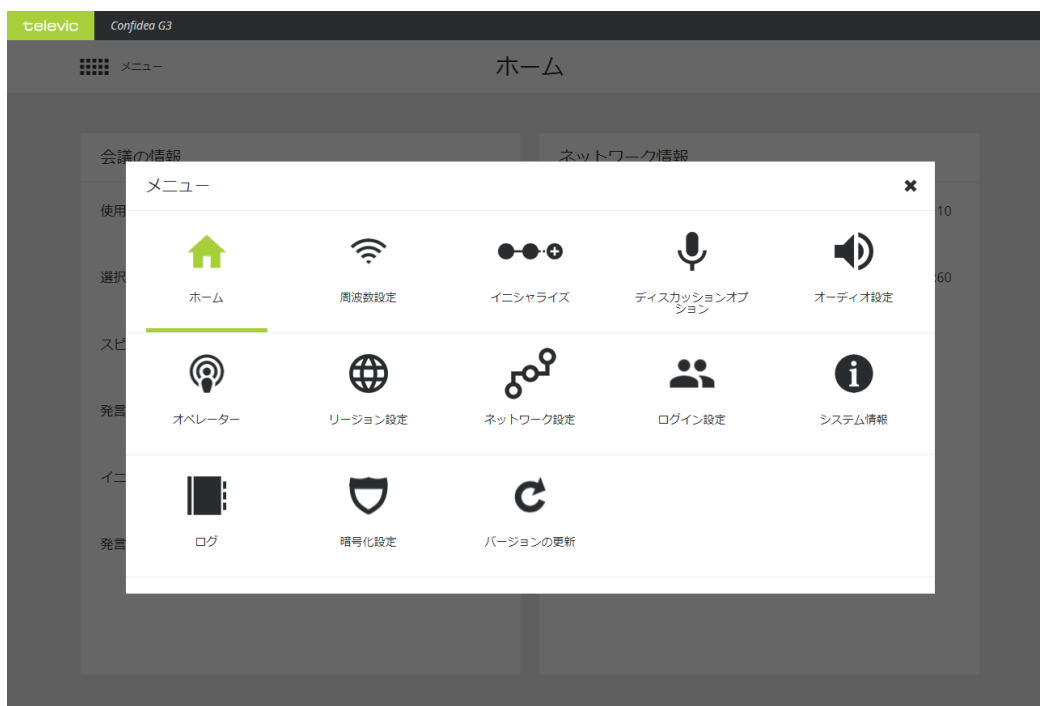
4. グループの削除、またはユニットのリンクを解除する場合は、削除アイコン（ゴミ箱マーク）をクリックします。「イニシャライズを消去」の操作によりユニットのリンクを全削除した場合、グループは削除されません。
5. 「編集を終了」をクリックすると、編集の終了および保存が行われます。

各種設定・操作画面

1. ホーム画面のメニューアイコンをクリックします。



2. メニュー画面が現れ、設定可能なすべての機能が表示されます。

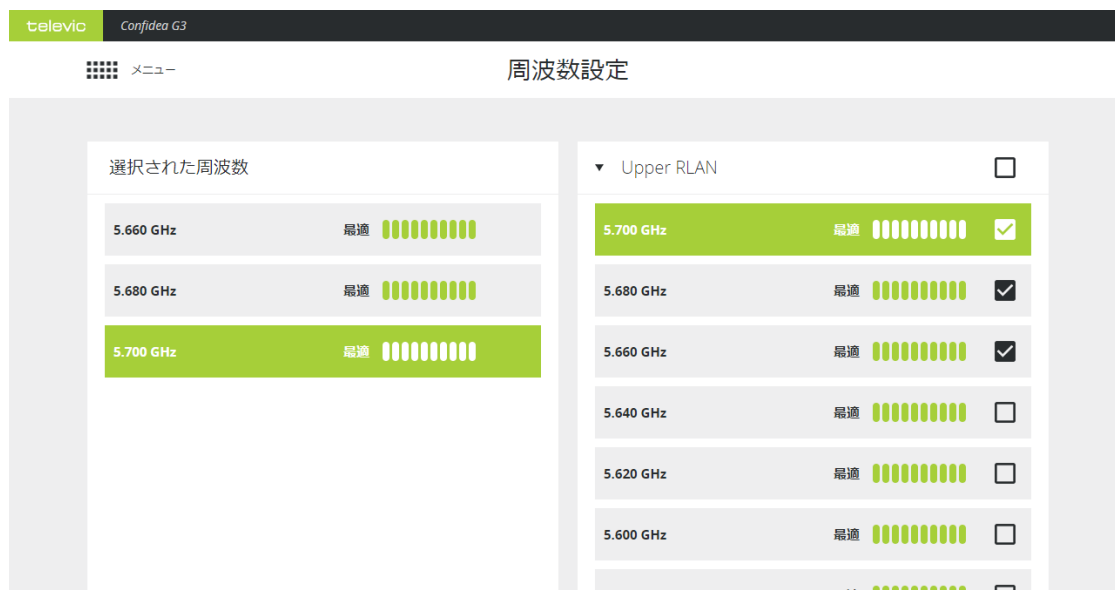


メニュー画面 概要：

アイコン	概要	説明
	ホーム	ホーム画面に移動
	周波数設定	周波数の混み合い状況の確認 使用する周波数の選択
	イニシャライズ	WDU（無線マイクユニット）を WCAP にリンクさせる「イニシャライズ」の操作を行う設定画面です。 詳細は「イニシャライズ手順」の章を参照してください
	ディスカッションオプション	マイクのオンオフに関するオプション（発言モードなど）を設定
	オーディオ設定	オーディオ設定（外部音声入力を含む）
	オペレーター	WDU の発言中 / リクエスト中の状態の確認 この画面からマイクをオンオフすることが可能です。
	リージョン設定	表示言語の設定、およびリージョン設定 <u>※リージョンを Japan から変更しないでください</u>
	ネットワーク設定	LAN ポートのネットワーク設定、カメラプロトコルの設定
	ログイン設定	ユーザー名 / パスワードの設定
	システム情報	デバイス情報 / システム情報 / 専用ソフトウェア CoCon を使用する場合はここでライセンスをアップロードします
	ログ	リアルタイムのシステムログを確認できます
	暗号化設定	暗号化設定を行います
	バージョンの更新	WCAP / WDU のバージョンアップデートの実施

周波数設定

1. メニューより「周波数設定」をクリックすると以下の設定画面が現れます。



2. 画面右側に、使用地域において選択できる周波数がリストされています。また、周波数ごと電波状況も確認することができます。



別の WCAP が同じ IP ネットワーク内にあるときは、その WCAP が使用している周波数の横にホスト名（入力されている場合）が表示されます。

3. 周波数のチェックボックスをクリックし、使用する周波数を選択します。画面左側には、選択した周波数がすべて表示されます。
4. 複数の周波数を選択した場合、WCAP はその中から自動的に使用する周波数を選択して通信を行います。チェックボックスが空の周波数は使用されません。
WCAP が選択した周波数は緑で強調表示されます。

ディスカッションオプション

ディスカッションオプション画面では、会議の進行に関するさまざまなオプションを設定します。

1. メニューより「ディスカッションオプション」を選択すると以下の画面が現れます。

The screenshot shows the 'Discussion Options' screen. At the top, there's a header with 'televic' and 'Confidea G3'. Below it, a navigation bar shows 'メニュー' (Menu) and 'ディスカッションオプション' (Discussion Options). The main content area has the following settings:

- 最大発言者数** (Maximum Number of Speakers): A slider set to 4.
- 発言モード** (Speaking Mode):
 - ☐ オペレーター (Operator)
 - ☐ グループディスカッション (Group Discussion)
 - ☐ ダイレクトスピーク (Direct Speak)
 - ☒ リクエスト (Request)
 - ☒ リクエストの取り消しを許可 (Allow Request Cancellation)
 - ☐ ボイスアクティベート (Voice Activation)
- ラストマイクのオンを保持** (Keep Last Microphone On):
 - ☐ オフ (Off)
 - ☒ オン (On)
 - ☐ オン (ライトリング連動) (On (Lighting Sync))
- (activeMicLedColor)** (Active Microphone LED Color):
 - ☒ (red)
 - ☐ (green)
- (requestMicLedColor)** (Request Microphone LED Color):
 - ☐ (red)
 - ☒ (green)

2. 会議の運用に応じて、以下のパラメーターを設定します。

パラメーター		説明
最大発言者数		同時にオンすることができる発話者の人数を 1-6 の範囲で設定します。参加者ユニットはこれによる制約を受け、設定した台数より多くのマイクをオンにすることはできません。議長ユニットには発言の優先権があるためこの制限を受けずオンオフが可能です。
発言モード		マイクのオンオフに関する動作モードを決定します。会議の実運用に最適なものを選択してください。
	オペレーター	オペレーターの操作のみでマイクのオンオフを行うモードです。 マイクユニットの発言ボタンは無効となります。 オペレーターの操作は Web ブラウザ、もしくは専用ソフトウェアを使用します。

	ダイレクトスピーク	発言ボタン操作によるオンオフの切り替えが可能です。 マイクのオンは、最大発言者数による制約を受け、それ以上の台数のマイクをオンすることはできなくなります(議長マイクは発言の優先権があります) 「割り込みを許可」を有効にすると、オンのマイクが同時発言者数に達していても割り込んでオンすることができます。同時に、最も長く(先に) オンされたマイクが強制的にオフになります。 「プッシュトゥーク」を有効にすると、発言ボタンを押し続けている間のみマイクがオンになります。
	リクエスト	発言のために、発言のリクエストとその許可が必要なモードです。 発言ボタンを押すと、発言のリクエスト状態になります。リクエスト状態のマイクは、初めにリクエストしたマイクは緑点滅、2 番目以降のマイクは緑点灯になります。 発言の許可は、議長ユニットの発言許可ボタンを押すか、専用ソフトウェアによるオペレーター操作が必要です。 「リクエストの取り消しを許可」を有効にすると、発言ボタンを再度押すことによりリクエストのキャンセルが可能です。
	ボイスアクティベート	音声検知によってマイクを作動させるモードです。 「スレッシュホールド」はマイクを作動させる音声レベルのしきい値です。発言を始めた直後にマイクがオンになるよう、この値を調節します。この値が高すぎると、マイクが作動しない、あるいは作動が遅い場合があります。逆に値が低いと、発言以外の小さな物音にもマイクが反応することがあります。 「ペンシルドロップサプレッション」を有効にすると、ペンが落ちたような短音に対して偶発的にマイクが作動しないよう反応を抑えます。この機能によって、実際の発声に対するマイクの作動がわずかに遅れることがあります。 マイクの感度を高く設定した際に大きな音声が入力された場合、リミッター処理のリリースタイムの影響でマイクの作動が遅くなることがあります。
	グループディスカッション	発言ボタン操作によるオンオフの切り替えが可能です。 オンのマイクが最大発言者数に達すると、それ以降に発言ボタンを押したマイクはリクエスト状態になります。最も早くリクエストしたマイクは緑点滅、2 番目以降のマイクは緑点灯になります。 オンしたマイクのいずれかをオフにすると、最も先にリクエストし緑点滅だったマイクがオンになります。また、議長マイク

		のリクエスト承認ボタンを押すと、オンのマイクの中で最も先にオンだったマイクをオフにし、最も先にリクエストしたマイクをオンにします。
ラストマイクのオンを保持		発言者がいないときにアンビエンス音声を収音することを目的としたオプションです。「オン」を選択すると、ラストマイク（最後にオンであったマイク）が、全マイクオフ時にマイクの作動を保持します（LED は消灯します）。「オン（ライティング連動）」を選択すると、作動を保持しているマイクのリング LED を点灯させます（発言ボタン LED は消灯します）
(activeMicLedColor)		デフォルトではマイクのオン状態を赤 LED で表示しますが、この設定で緑に変更することが可能です。
(requestMicLedColor)		デフォルトではマイクのリクエスト状態を緑 LED で表示しますが、この設定で赤に変更することが可能です。

オーディオ設定

スピーカー音量、マイクの感度、外部入出力設定を変更することが可能です。

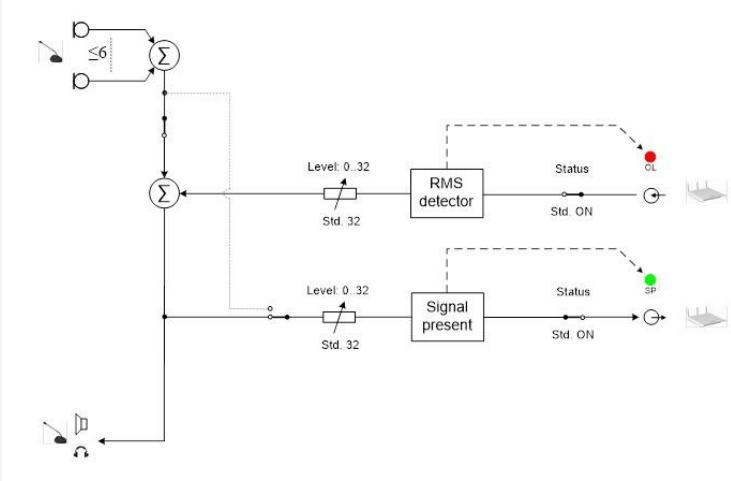
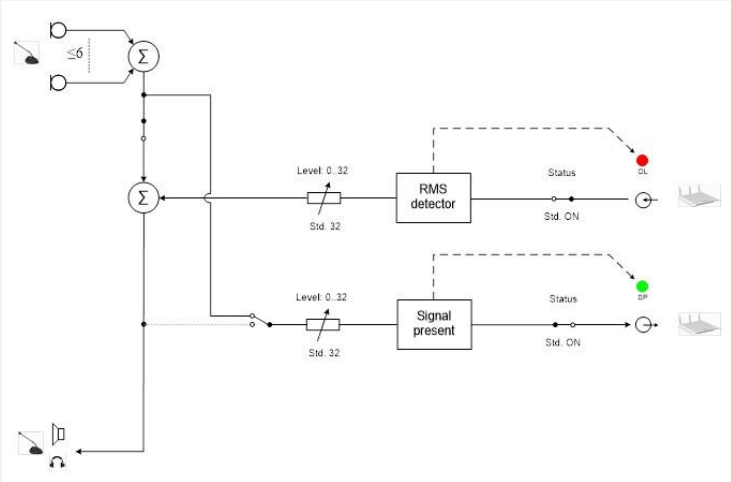
1. メニューより「オーディオ設定」を選択すると以下の画面が現れます。



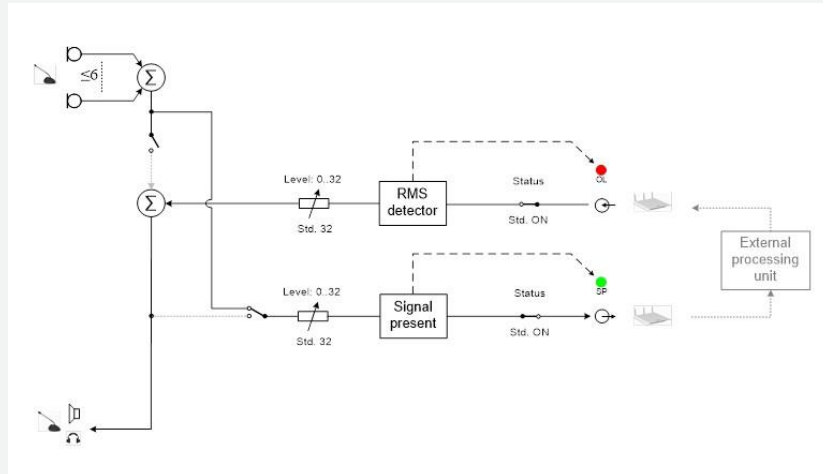
2. 以下のオーディオパラメーターを変更します。

一般

パラメーター	説明
スピーカー音量	マイクユニット内蔵スピーカーのボリュームを調節します
マイク感度	マイクの感度設定です。以下の状況に応じて設定します。 > 発言者とマイクとの距離 > 拡声音量 マイクの感度が高い場合、拡声音量が大きい場合、または拡声スピーカーがマイクと近い場合、ハウリングの原因となります。

	外部コンプレッサー・リミッターを使用する場合は、マイクを低感度（近距離設定）にすることで、外部コンプレッサー・リミッターの効果を最大限にすることができます。
オーディオルーティング	ノーマル： マイク音声・AUX 入力音声がミックスされ、フロア（会場）音声としてユニット内蔵スピーカー、ヘッドホン、AUX 出力より出力  遠隔会議(N-1)： AUX 入力に他拠点の会議音声を入力する際に用いられます。AUX 出力からはマイクの音声のみ出力されます。  エクスターナルプロセッシング： AUX 入力を外部プロセッサに接続する際に用いられます。AUX 出力からはマイク音声のみが出力されます。また、内蔵スピーカー・ヘッドホン出力からは AUX 入力音声のみが出

力されます。



AUX 入力

WCAP の外部入力端子（TRS6.3mm バランス入力）の設定です。

パラメーター	説明
AUX 入力ステータス	入力音声のオンオフを切り替えます。
AUX 入力レベル	入力感度を調節します。
業務用ラインレベル	入力音声レベルの範囲を、以下の 2 種類から選択します > 無効(=民生レベル): ノミナル -10 DBV, 最大レベル +10 dBV > 有効(=業務レベル): ノミナル +4 dBu, 最大レベル +24 dBu この設定は AUX 入力と AUX 出力で同一にしてください。

AUX 出力

WCAP の外部出力端子（TRS6.3mm バランス出力）の設定です。

パラメーター	説明
AUX 出力ステータス	出力音声のオンオフを切り替えます。
AUX 出力レベル	出力ボリュームを調節します。
業務用ラインレベル	出力音声レベルの範囲を、以下の 2 種類から選択します > 無効(=民生レベル): ノミナル -10 DBV, 最大レベル +10 dBV > 有効(=業務レベル): ノミナル +4 dBu, 最大レベル +24 dBu この設定は AUX 入力と AUX 出力で同一にしてください。

オペレーター画面

オペレーター画面では、どの参加者が発言しているか、または発言をリクエストしているかを確認できます。また、画面操作によりマイクのオンオフ、（またはリクエスト状態）にすることも可能です。発言モードを「オペレーター」にした場合はこの画面を使用してのみマイクをオンオフ可能です。

1. メニューから「オペレーター」を選択すると以下の画面が現れます。



2. 画面右側には、使用可能なすべてのマイクユニットがリスト表示されています。
3. 画面左側には、発言中・発言リクエスト中のマイクユニットがリスト表示されます。
4. 「すべてオフにする」ボタンをクリックすると、一度にすべてのマイクをオフに切り替えます。
5. マイクのアイコンをクリックすると個別にマイクをオンします。赤いマイクのアイコンが現れ、オンであることを示します。
6. 斜線の入ったマイクのアイコンをクリックするとマイクをオフします。
7. 旗マークのアイコンをクリックすると、リクエスト状態になります（マイクの LED が緑点滅します）。緑の旗マークが現れ、リクエスト状態を示します。
8. マイクユニットがグループに登録されている場合、リスト右端にグループの色を表示します。

リージョン設定

メニューから「リージョン設定」を選択すると表示言語の設定、およびリージョン（使用する地域）の設定画面に移動します。

リージョン設定により、使用地域の規制に従って、法的に利用ができない周波数を非表示にします。

※日本国内においてはリージョン「Japan」から変更しないでください。

televic

Confidea G3

メニュー

リージョン設定

言語

日本語

リージョン

Japan

ネットワーク設定

1 メニューより「ネットワーク設定」をクリックすると以下の設定画面が現れます。

televisConfidea G3

メニュー

ネットワーク設定

IP設定

設定を保存

ホスト名
wcap3

アドレスモード
☒ 固定IP
☐ DHCP

IPアドレス
192 168 1 110

サブネットマスク
255 255 255 0

ゲートウェイ

API TCP ポート番号
5011

カメラコントロールプロトコル

設定を保存

有効
☐

IPアドレス

ポート番号
8000

2 必要に応じて、以下のパラメーターを変更します。

パラメーター	説明
ホスト名	WCAP のホスト名を変更します
アドレスモード	以下のいずれかを選択します。 <u>固定 IP</u> WCAP を固定 IP 動作させます <u>DHCP</u> WCAP を DHCP 動作させます。※同一ネットワーク上に DHCP サーバーが存在する必要があります
IP アドレス	固定 IP モードにおいて、WCAP の IP アドレスを入力します
サブネットマスク	固定 IP モードにおいて、WCAP のサブネットマスクを入力します
ゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを入力します
API TCP ポート番号	WCAP API のポート番号 デフォルトは 5011 です

カメラコントロールプロトコルの設定については「カメラコントロールプロトコル」の章を参照してください。

ログイン設定

メニューから「ログイン設定」を選択すると、ユーザー名とパスワードの変更が可能です。変更した内容を保存するには、「設定を保存」をクリックします。

システム情報

メニューから「システム情報」を選択すると、以下の情報が表示されます。

The screenshot shows the 'システム情報' (System Information) page. It has a sidebar with 'メニュー' (Menu) and a main content area. The main area is divided into sections: 'デバイス情報' (Device Information), 'システム情報' (System Information), 'ライセンス' (License), and 'WCAPを再起動' (Restart WCAP). The 'デバイス情報' section lists IP address (192.168.1.110), Subnet mask (255.255.255.0), Gateway (N/A), Address mode (Fixed IP), and MAC address (04:79:B7:19:3C:60). The 'システム情報' section lists Serial number (150007A3), Model name (Confidea_G3), and System version (3.5.5 (fpga 3.2.1)). The 'ライセンス' section shows the MAC address (04:79:B7:19:3C:60) and a message that no license is installed, with a button to 'ライセンスのアップロード' (Upload license). The 'WCAPを再起動' section has a button to 'WCAPを再起動' (Restart WCAP).

パラメーター	説明
デバイス情報	IP アドレス他、WCAP のデバイス固有の情報を表示します
システム情報	シリアルナンバー他、WCAP のシステム情報を表示します
ライセンス	専用ソフトウェア CoCon を使用する場合はここでライセンスファイルのアップロードが必要です
WCAP を再起動	「WCAP を再起動」をクリックし WCAP の再起動をすることが可能です。

ログ画面

メニューから「ログ」を選択すると、ログ画面を表示します。

ここでは、なにか特定の問題が発生したときの監視や分析ツールとしてリアルタイムログを確認することが可能です。初期画面では、イベント・設定変更・警告・その他メッセージをすべてキャプチャします。また、カテゴリーボタンをクリックすることでログのフィルタリングが可能です。



ログ画面には以下のとおりにカテゴライズされた情報がリスト表示されます。

アイコン	カテゴリー	説明
	情報	マイクユニットの接続、マイクユニットの起動など
	設定	設定変更に関するメッセージ
	警告	問題発生する可能性を検知した際にエラー表示します
	エラー	さらなる注意が必要な問題があることを示します。

暗号化設定

Confidea G3 では、AES 方式・128 ビットの暗号化を採用しております。

工場出荷時、WCAP の暗号化キーは初期状態になっており、イニシャライズ操作を行った WDU はすべて WCAP と通信可能ですが、以下の操作にて暗号化キーの変更を行うと、特定の WDU のみ WCAP と通信させることが可能です。

メニューから「暗号化設定」を選択し暗号化設定に移動します。「デフォルトの暗号化」から「その他の暗号化」に切り替えると、システムに接続しているすべての WDU に変更された暗号化キーが送信されます。これにより、暗号化キーが WCAP と一致する WDU のみ WCAP と通信できるようになります。



暗号化キーを変更したのちに WDU の追加を行いたい場合は、一度「デフォルトの暗号化」を選択して暗号化キーを初期状態に戻してからイニシャライズ操作を行う必要があります。

televio

Confidea G3

メニュー

暗号化設定

暗号化

☒ デフォルトの暗号化

☐ その他の暗号化

新しい暗号化キーを作成

作成

Confidea G3 をアップデートする



アップデートには数十分～の時間がかかることがあります。また、アップデート中はデバイスを使用できません。無線マイクユニットをアップデートする際は、電池残量 50%以上であること、また電波状況が良好であることを確認してください。電波干渉のある環境下ではアップデートの所要時間が大幅に増加します。

1. メニューより「バージョンの更新」を選択すると以下の画面に移動します。



2. この画面では、WCAP および WDU（マイクユニット）のファームウェアバージョンを確認できます。
3. 最新バージョンは <https://www.televic-conference.com/en/confidea-g3-software-updates> にアクセスして確認します。最新のリリースノートもこちらで閲覧できます。

Confidea G3 Software Updates

Confidea G3 v3.5.5 (2020-09-01)

This release contains changes to the WCAP and firmware for the units (WDU).

Release Notes Confidea G3 3.5.5

Download 3.5.5 CU

Download 3.2.0 WDU only

4. WCAP (CU) および WDU のファームウェアをそれぞれダウンロードします。



WDU のファイル形式は「WDU.x.yz.tar」または「WDU.x.yz.tuf」となります。
WCAP のファイル形式は「AP.x.yz.tar」または「AP.x.yz.tuf」となります。

5. 「バージョンの更新」画面で「更新ファイルのアップロード」をクリックし、ダウンロードした更新ファイルを選択します。WCAP のバージョン および WDU のバージョンは、個別に流し込む必要があります。

6. アップグレードファイルの対象が正しいことを確認し、「更新プログラムのインストール」をクリックするとファームウェアの流し込みが開始します。画面には、インストールの進捗が表示されます。アップデートが失敗した場合、システムは「ゴールデンモード」で起動し、アップデートの再試行が可能です。WDU の更新中は、マイクボタンの LED が赤/緑を交互に表示します。



アップデート中に誤ってユニットの電源が切れてしまった場合、数分間アップデートが停止しますが、その後、起動している他のユニットのアップデートを継続します。

7. 更新が終了したら、「Continue」をクリックします。WCAP 更新時は WCAP が再起動します。WDU の更新時は WDU のみ再起動されます。
8. アップデートページに戻ると、WCAP および WDU にインストールしたファームウェアのバージョンが表示されます。

専用ソフトウェアと連携する

Confidea G3 は、専用ソフトウェア CoCon と連携させることでより複雑な会議のセットアップ・オペレーションが可能です。

ソフトウェア連携をするためには、WCAP に有償のライセンスファイルをアップロードする必要があります。ライセンスファイルの発行には Confidea WCAP G3 の MAC アドレスが必要です。

詳細は、株式会社オーディオブレインズにお問い合わせください。

Plixus 有線会議・同通システムと連携する

Confidea WCAP G3 を Plixus MME / Plixus AE-R のカンファレンスポートとすると Plixus の同時通訳システムや有線の会議システムに Confidea G3 システムを統合することが可能です。

Plixus システムと連携するには、Plixus の「Confidea G3 カップリング」機能を使用し、WCAP をシステムカップリングモードにします。

カップリングモードにおいては、イニシャライズ・オーディオ・ディスカッションオプション等の設定は Plixus 主装置の設定に連動します。

周波数設定および WCAP のネットワーク設定のみ、WCAP にて設定します。

詳細は、株式会社オーディオブレインズにお問い合わせください。



無線システムをアップデートする必要がある場合、システムカップリング構成からスタンドアロンモードに一度戻した状態でアップデートする必要があります。

WCAP のファクトリーリストア

以下の手順により、WCAP を工場出荷時の設定にリセットすることが可能です。

1. ピン等を使用して、アンテナ中央の横にあるリセットボタンを 10 秒間長押しします。
ボタンを押し続ける間、ウェブサーバーには以下の画面が表示されます。



2. ボタンを離すと、デバイスがリセットされることを示す画面が表示されます。
この操作後、IP アドレスはデフォルト値にリセットされます。



リセットした WCAP の Web サーバーにアクセスすると、初期設定のウィザード画面に移動します。ウィザードに従って言語表示、リージョン、WCAP のホスト名、ログインの設定をしてください。また、ログイン画面で「Enable login」を無効にすると、ログインせずに WCAP の Web サーバーにアクセスすることが可能です。

カメラコントロールプロトコル

Confidea 会議システムは、UDP のカメラ制御用プロトコルをサポートしています。Confidea WCAP とカメラコントロール機能を組み合わせるには、以下の手順に従います。

1. メニューより「ネットワーク設定」を選択すると、画面右側にカメラコントロールプロトコルの設定画面が現れます。



2. 「有効」チェックボックスをクリックして設定を有効にします。
3. 「IP アドレス」に UDP プロトコルのターゲットアドレスを入力します。
4. 「ポート番号」にポート番号を入力します。ポート番号は 3000 より大きいものを使用してください。デフォルトの UDP 通信ポートは 8000 です。
5. マイクユニットのボタンアクションが検知されると、WCAP から JSON フォーマットで以下の電文が送信されます。

```
{ "UID" :xxx, "status" :y}
```

“UID”はイニシャライズ時に決定した マイク ID を表します。

”status” はボタンアクションの内容を表します。0 はマイクオフ、1 はマイクオン、2 はリクエスト、3 は議長ユニットのオールオフボタンです。

例えば、7 番マイクがリクエストになったときは以下の電文が送信されます。

```
{ "UID" :7, "status" :2}
```

機器仕様

Confidea WCAP G3

- 本体 -	
素材	アルミニウム
色	RAL7035
本体サイズ (mm)	250 (w) x 40 (h) x 255(d)
重量	1250g
- Electrical -	
電源電圧	24V(アダプタ) / 48V(Plixus)
消費電力	最大10 W
Ethernetポート	LAN, TCP/IP
変調方法	OFDM
送信出力	<20 dBm
- システム -	
サンプリングレート	32 kSps
ビットデプス	24 bit
オーディオチャンネル	4 + floor
周波数特性	20 - 16,000 Hz
対応周波数	2.4GHz / 5GHz
アンテナ	3 (付属)
カバーエリア	約30m @1台

- オーディオ -	
ノミナル入力レベル	+4 dBu / -10dBV
最大入力レベル	+24dBu / +10dBV
周波数特性	20 - 16,000Hz
THD @ ノミナルレベル	0.1% @ 1kHz
ダイナミックレンジ	90dB
インピーダンス	10kΩ
入力コネクタ	6.3mmバランス x1
出力コネクタ	6.3mmバランス x1
- 動作環境 -	
ファン	なし
温度	5-50 ° C
入力インピーダンス	10 kΩ
ダイナミックレンジ	> 90 dB
周波数特性	20-20000 Hz
- 接続端子 -	
Plixusネットワーク接続端子	RJ45 x2
コントロール端子	RJ45 x1

Confidea WDU ※以下はフル機能モデル (Confidea CIV) の仕様です。モデルによっては実装されていないパーツがあります

- 本体 -	
素材	PC/ABS
色	マットブラック (RAL9011)
本体サイズ (mm)	230 (w) x 130 (d) x 60(h)
重量	460g
- バッテリー -	
使用電池	リチウムイオンバッテリー
最大消費電力	3.5 W
電池容量	6600 mAh
最大連続稼働時間	28 h
出力電圧	7.2VDC
充電時間	4 h
- スペック -	
オーディオクオリティ	16 bit/32kHz
RF出力	<20 dBm
暗号化	AES 128bit
使用周波数帯	2.4 /5 GHz
レイテンシー	20 ms (ATM)
カードリーダー	MIFARE DESfire
- マイクロフォン入力-	
周波数特性	125 - 22,000 Hz
入力インピーダンス	1 kΩ
最大入力レベル	-21dBV
ノミナル入力レベル	-50dBV
ダイナミックレンジ	> 90dB
THD @ ノミナルレベル	< 0.1 %(1kHz)
- 内蔵スピーカー-	
周波数特性	150 - 20,000 Hz
定格出力	4W

- ディスプレイ-	
ディスプレイタイプ	OLED
解像度	128 x 64
文字サイズ	5mm
- ヘッドフォン出力-	
最大出力レベル	80mW /32Ω
S/N比	77.5 dBr (A)
周波数特性	100 - 14,000 Hz
インピーダンス	16Ω
THD @ ノミナルレベル	0.06% @ 1 kHz / 32 Ω
- 動作環境 -	
温度(使用中)	-5-55 ° C
温度(充電中)	0-45 ° C

Confidea BP

- 本体 -	
素材	PC/ABS
色	マットブラック (RAL9011)
本体サイズ (mm)	170 (w) x 25 (h) x 75(d)
重量	320g
- 電源 -	
使用電圧	15 V
電力出力	6500 mAh
オートノミー（駆動時間）	28 時間
最大/最小出力電圧	8.4/5.9 VDC
ノミナル出力電圧	7.2 VDC
満充電時間	4 時間
50%充電時間	1 時間
- 動作環境 -	
温度	5 - 55 ° C

Confidea CHT

- 本体 -	
素材	PC/ABS/1mm厚スチール
色	マットブラック (RAL9011)
本体サイズ (mm)	130 (w) x 480 (h) x 140(d) 3U
重量	3920g
- 電源 -	
使用電圧	100-230 VAC ±10%
電力出力	200W
- 動作環境 -	
温度	-10 - 60 ° C

D-MIC 30/40/50/70 SL

- 本体 -	
素材	Brass
色	RAL9011
本体サイズ (mm)	D-Mic30SL:305 (w) x 25 (h) x 25(d)
	D-Mic40SL:405 (w) x 25 (h) x 25(d)
	D-Mic50SL:505 (w) x 25 (h) x 25(d)
	D-Mic70SL:699 (w) x 25 (h) x 25(d)
重量	100g
LED	赤、緑

- オーディオ -	
マイクカプセル	バックエレクトレットコンデンサー
指向特性	単一指向性
バイアス抵抗	1k2
Vdd	3.3VDC
ノミナル	1Pa = 94dBSPL
最大SPL @1kHz	>67dB(A)
センシティビティ	(-40.5±2)dBV @ 1Pa, 1kHz
電源	3.3VDC, 0.5mA
消費電力	0.5mA(LED消灯) / 25mA(LED点灯)
コネクタ	スクリューロック式

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは株式会社オーディオブレインズまでご連絡ください。お問合せ受付時間は、土日祝日、弊社休業日を除く 10:00～18:00 です。

株式会社オーディオブレインズ

〒216-0034

神奈川県川崎市宮前区梶ヶ谷 3-1

電話: 044-888-6761

AUDIO  **BRAINS**